

本当は言いたいよ

三蔵子小・2 ばんば おとは

「おはよう。」

朝友だちが言ってくれます。大きくて、元気な声で言ってくれるから、わたしはとてうれしくなります。

だけど、わたしは小さな声で

「おはよう。」

とかえしてしまいます。友だちに聞こえているか心配になるけど、どうしても大きな声で言えません。どうしてかわからないけどはづかしくなってしまう。

ある時、教室を出て下校であつまるところまで行く道でころんできました、足からたくさんちがでてしまいました。とてもいたかったです。本当は先生に言つて、ほけん室に行きたかったけど、どうしても言えませんでした。下校で、もうみんながあつまっている中で先生に言つたら、みんながわたしにちゅう目してしまうと思つて、はづかしくて言えませんでした。

しかたなく、そのまま家に帰りました。家に帰つてお母さんに話しました。お母さんはけがの手当てをしてくれました。そして、「どうして先生に言わなかったの。もしかして、はづかしかったの。」

と聞きました。わたしは、

「うん。」

とうなずきました。お母さんは、

「おとはのことだからそうだと思った。」

とえ顔で言いました。にこりとわらつていたけれど、本当はわたしのことを心ばいしてくれている顔でした。

「ちゃんとやらないと、もし大きなけがをしてしまった時に、おとはが大へんなことになるし、まわりの人にも心ばいをかけてしまうよ。本当にこまったときにはかならず大人に言つてね。」

お母さんはわたしに言いました。お母さんにそう言われて考えてみました。もし大きなけがをしても先生に言えなかったら、ずっとちがでたままです。いたくても何もしてもらえませんか。きっとこまります。そして、お母さんも心ばいするし、かなしい気持ちにさせてしまいそうです。

自分の気持ちをたえるのは、わたしはとてにが手です。ほいく園の時からよくお母さんに

「小さな声で言つても、あい手に聞こえていなかったら、言つていないのと同じになっちゃうよ。」

と言われていました。わたしだって本当は

「おはよう。」

「ありがとう。」

「ごめんね。」

って大きな声で言いたい。いつでも大きな声であいさつをしたり、気持ちも伝えたりしている子を見るとすてきだなと思います。わたしには、とつてもゆう気があることです。でも、わたしも友だちをにっこりさせて、もっとなかよくなりたいから、まずはあいさつからがんばります。そして、こまったことがあつたときには、はづか

しいけどゆう気をもって言えるようになりたいです。